

令和元年度 第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 会議録

会議の概要

開催日時		令和元年7月26日（金）13時30分から15時まで	
開催場所		多摩区役所6階 601会議室	
出席者の氏名	委員	青木義明（多摩区食生活改善推進員連絡協議会） 有北いくこ（多摩区こども総合支援連携会議） 内田由美子（多摩区社会福祉協議会地域課） 大澤敏夫（菅地区社会福祉協議会） 大津努（稲田地区社会福祉協議会） 和秀俊（田園調布学園大学）	木澤静雄（登戸地区社会福祉協議会） 岸忠宏（多摩区医師会） 田村弘志（多摩区社会福祉協議会） 古谷欣治（中野島地区社会福祉協議会） 山口正芳（区長推薦） 吉田輝久（多摩区町内会連合会） 吉田稔（多摩区商店街連合会）
	局 多摩区地域包括ケアシステム推進本部会議幹事会委員・事務	萩原圭一（区長） 伊藤公一（危機管理担当課長） 今村健二（総務課長） 岩上雅博（企画課長） 吉澤朋充（地域振興課長） 宮館政幸（生涯学習支援課長） 本多孝一（区民課長） 竹田和也（保険年金課長） 徳永のり子（児童家庭課長） 森田博志（高齢・障害課長） 岩崎美穂（保護第1課長） 瀧澤浩子（衛生課長） 安藤奈穂子（保育所等・地域連携担当課長） 田中仁志（道路公園センター管理課長）	飯土井哲夫（地域みまもり支援センター長） 塚本和秀（地域みまもり支援センター副所長） 眞川幸治（地域みまもり支援センター担当課長） 高橋みゆき（地域支援課長） 高橋真奈美（地区支援第1係長） 中村すみ子（地区支援第2係長） 正木久美子（地域サポート係長） 瀧 真由美（地域ケア推進課長） 倉真佐恵（企画調整係長係長） 青柳美登理（地域ケア推進課） 萩原奈々恵（地域ケア推進課）
	欠席委員	岡本次郎（多摩区老人クラブ連合会） 清川享二（生田地区社会福祉協議会） 小林由紀（地域包括支援センター（しゅくがわら））	近藤充紀（多摩区民生委員児童委員協議会） 山本望（多摩区地域自立支援協議会）
議 事		(1) 地域包括ケアシステムの取組について (2) 第5期 多摩区地域福祉計画の中間評価について (3) 意見交換 「基本目標3 見守り・支え合いのネットワークづくり」について (4) その他	

傍聴人の数	なし
配付資料	会議次第 資料１…名簿 資料２…多摩区支え合いのまちづくり推進会議運営要綱 資料３…第５期地域福祉計画策定までの経緯 資料４…地域包括ケアシステムの推進に向けた取り組みについて（概要）／地域包括ケアシステムの推進に向けた取組の進捗状況 資料５－１…第５期多摩区地域福祉計画 中間評価 資料５－２…多摩区役所内各課事業評価シート 冊子資料…第５期川崎市地域福祉計画（概要版） 第５期多摩区地域福祉計画 みまもる つながる 地域の輪 みんなでつくる１０年、２０年先のまちづくり～川崎版地域包括ケアシステムの取組～ のぼりとミーティング２０１９～地域で社会貢献の輪を広げよう～

議事要旨

発言者	発言要旨
事務局 (瀧課長)	第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議 開会の挨拶。 会議録のための録音設置、傍聴者等の説明。
荻原区長	区長より挨拶。
事務局 (瀧課長)	資料の確認。 委員の自己紹介依頼。
内田委員	社会福祉協議会は、地域の中で様々な方々に関わっていただき、地域の課題を地域の人々で解決していこうという取組をさせていただいている。 区役所と同じ時期に、昨年度から区社協でも地域福祉活動計画を策定した。 区社協は6年間の計画になっており、区役所より3年長いが見直しをかけながら行政の計画と整合性をとってやっていけたらと思っている。
岸委員	多摩区医師会の会長を中村医師から4月に引き継いだ。 生田で内科のクリニックを開業している。ずっと多摩区に住んで、私で11代目になる。父が昭和30年代ぐらいに開業し、クリニックも開業して50年ぐらいになる。ずっと住んでいるので神社の総代やお寺の総代などもしている。 今週末はどこでも盆踊りがあると思うが、2年間雨だったので帰ったらテルテル坊主でも作って明日晴れることを祈りたいと思う。
吉田輝久委員	多摩区町会連合会から参りました。自分の町内会は五反田自治会。
有北委員	多摩区こども総合支援連携会議から出ている。 団体としてはNPO法人ままとんきっずに所属していて、今年の5月まで理事長をしていたが、後輩を育てることができて無事退任した。 この地域福祉計画、支え合いのまちづくりの会議には7年参加させていただいている。地域包括ケアの新しいパンフレットの改定の際の広報の委員もさせていただき、けっこう意見を言って少しは分かりやすいパンフレットになったか、と思っている。
山口委員	私は区長推薦ということだが、多摩区ウォーキング推進委員会の事務局長をやっている。多摩区に住んで約50年。行政と色々話をしてきたのは今から13年、14年前ぐらいか。国の施策で運動推進をしろ、ということがあり、保健師さんからどういう風にしようかということで、公園体操、いきいき体操、ウォーキングと3つの柱で多摩区の区民の運動を推進しようということで始めた。
吉田稔委員	多摩区商連の吉田といいます。今多摩区の商店が950店舗ぐらいある。様々な流れがあり厳しい時代に入っており様々な努力をしている。

発言者	発言要旨
青木委員	食生活うんぬんを書いてあるが、女性が中心のような気がするが、実は多摩区は食生活改善推進委員の男性の比率が大変高い。我々のような年になってくると男性でも1人で食事ができるようにしなければいけないということで、これについて色々ボランティア活動をやらせていただいている。
事務局 (瀧課長)	委員の皆様、自己紹介ありがとうございました。 (欠席委員の確認) (多摩区地域包括ケアシステム推進本部幹事会委員及び事務局の自己紹介) (組織改編に伴う要綱改正と本会議の位置付けについて簡単に説明) 座長選出を行う。事務局としては昨年度も座長として進行をお願いしていた和委員をお願いしたいと考えているが、皆様いかがか。 (一同承認) それでは、和委員に座長をお願いしたいと思う。
和座長	それでは、議事(1)地域包括ケアシステムの取組について、事務局より説明をお願いする。
事務局 (萩原)	議事(1)地域包括ケアシステムの取組について 資料4 地域包括ケアシステムの推進に向けた取り組みについて(概要)／地域包括ケアシステムの推進に向けた取組の進捗状況に基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。 何か今の説明の中で質問やご意見、いかがか。

発言者	発言要旨
有北委員	町会を中心に事業をしていくという話だが、私の住んでいる町会は今加入率50%を切っている状態で、町会に加入していない住民はどうなるのかがずっと気にかかっている。 先日、私の住んでいる地区の住民全部が町会から脱退してしまった。私は町会推薦で民生委員をやっているので抜けられない状態。 脱退した方たちが話し合い、広報の配布と清掃は今まで通りやればいいのか、ということになったが、防災や緊急時についてどうするかがあやふやなままで、各自で防災の用品を揃えて、いざというときはご近所3軒両隣ぐらいで助け合って避難所へ行くようにしよう、という話になったのだが、皆さんもう高齢化している。町会に加入していない人たちに対して何か別の働きかけをしていかないといけないのではないか、という懸念がある。 それからもう1点、私が所属しているNPO法人が中野島にあり、つながり愛プロジェクトにも入れていただいているが、私の活動が子ども・子育て支援中心なので、そのためのネットワークを立ち上げる動きをこの1年間してきた。8月にそのネットワークを立ち上げる予定。何かあれば情報流していただけるだけでも違うかな、と思う。
事務局 (瀧課長)	町会に加入していない人たちへの働きかけについて、皆さんの方からアイデア、ご提案、ご意見、お考えとかあれば聞かせていただきたい。
木澤委員	行政に質問がある。要援護者の名簿が民生委員と町会の方に来るが、町会に入っていない方の対応はどうすればいいのか。私は基本的には避難所で救援物資等を集めた場合、優先的に町会に入っている人に渡さざるを得ないと思っている。普段町会の活動に協力をしていない方が早く来ても対応できるのかどうか。役所の方としては対応をどう考えているのか。危機管理の方でご意見を聞かせていただければと思う。
危機管理担当 伊藤課長	要援護者の方には色々なパターンがある。そのパターンに沿って、実際に災害が起きたときは近隣の方々やお付き合いのあるネットワークに頼らざるを得ない。 町会という枠だけではなく、地域のネットワークづくりというのも今後大切なことだと思っているので、地域の方々の顔が見える関係を作っていけるよう、例えば避難所運営会議に職員を派遣して啓発などを行っている。
地域みまもり 支援センター 飯土井所長	補足だが、要援護者名簿は登録される方の名簿ともう一つ、要介護度、障害等級の重い方、そういう方を登録した名簿も備えてあるので、実際にはその方たちの情報も確認しながらやっていくことになると思う。

発言者	発言要旨
吉田輝久 委員	町会の立場で聞きたいのだが、今までは町会に入っていて、やめたというの は何か理由があるのか。
有北委員	今年度うちの地区から役員を出さなければいけないが事情があつて難し い、と町会の方に伝えたところ、町会にいる限りそういうことは許されな い、と強く言われてしまった。町会の対応もかなり頑なで、役員を出さない のならやめろ、その地区の中で1戸でも残っていればその人に役員をやら せる、と言われてしまい、全員でやめるしかなくなった。実はうちだけ残っ てしまったが、私は民生委員をやっているので役員は絶対できない、とお断 りした。町会に入っているメリットについて地区で話し合ったときに、町会 に入ってもなくても広報は自分たちで配布できるし、ごみ箱の管理・清掃は町 会とは別に自分たちでやってきた。「いざというときには町会に入っていな い人は助けない」というようなことを以前町会の人に言われたことがある が、防災組織に入っていないなくてもそういうことで避難者を差別するよう なことは絶対にできないはずだから、そうすると町会に入っているメリッ トはない、ということになってしまった。 払っているお金の使い道等がよく分からない等、色々な意見が出て、じゃあ 一気にやめてしまおうということになった。
吉田輝久 委員	自分が所属する町会に結構大きい消防団がある。町会に入っていないから そこは消しません、ということは絶対できない。消防署は火は消してくれる が、外に出したものや道路に出したものを入れるところまではしない。消防 団は道路に出したものをまた入れてくれるとか車が通れるようにしてくれ るとか、そういうことをやってくれる。 災害時要援護者は町会に入ってもなくても役所から名簿が来れば訪問してい る。
和座長	かなり白熱してきたが、後半の意見交換につながるような意見が出たと 思う。 続いて議事（２）に行きたいと思う。第５期 多摩区地域福祉計画の中間 評価について 事務局より説明をお願いします。
事務局 （青柳）	議事（２）第５期 多摩区地域福祉計画の中間評価について 資料５－１…第５期多摩区地域福祉計画 中間評価 資料５－２…多摩区役所内各課事業評価シート に基づいて説明。
和座長	ありがとうございました。 ご意見、ご質問いかがか。 評価、というのは初めてかと思うが、前回の会議でも地域福祉計画を評価 するというのは難しい、という意見が出たと思う。そういった視点でもいい し、各「重点的な取組」の大きな枠組みのところからや、何かご自身の活動 からでも結構。いかがか。

発言者	発言要旨
木澤委員	今報告を聞き、読んでいて「提供できました」とあり、役所が中心になって推進したような感じに受け止められるが、私が関係している「多摩区いきいき体操」は役所の支援なんてない。以前は運営委員会の総会があるとき地域みまもり支援センターの講堂が使える、予約をしてくれるなどの支援があったが、一昨年、去年からはそれがなくなって自分たちでやっている。だがこの評価を聞いていると、役所で応援していますよ、やっていますよ、できました、提供できました、という風に聞こえる。
事務局 (倉係長)	地域福祉計画ということで行政の事業として評価する、というポイントが1点。冒頭でも少し触れたが、地域の方の活動をどう支援したか、というところも含めて評価をするよう言われており、いきいき体操については私共から見ると、最初は行政と一緒に始めて、今は皆様方の力でどんどん広がり、お互いが支え合う関係づくりというのがいい形で展開している、と思っている。
木澤委員	お互いが支え合っているみたいなことをおっしゃるが、正直言って支えられていない。だからそれは行政の勘違いだと思う。
事務局 (倉係長)	「お互いが支え合っている」と申し上げたのは、住民同士の支え合い、という意味。決して手放しにしているということではなく、ご相談等があればまた対応の課と一緒に協議していくこともできるので、その都度お声がけ下さい。ご意見ありがとうございました。
田村委員	地域福祉計画中間評価の説明があり、よく達成できて素晴らしい、思ったように進んでいるのだな、と聞こえたのだが、事業の達成度が皆3だ。達成度1から5まであって、3。 例えば資料5-2に色んな団体への支援があるが、色んな団体との相談、会議の中でこう評価されたのか。どういう基準で評価したのか。達成度1にするにはどうすればいいのか、ということをお話し合っているのだろうか。
山口委員	担い手に対してこういう目標でこういう支援をする、というのがない。担い手はさっき木澤委員が言ったように直接やっている人。その人に何を支援するのか。今年はこういう支援をします、そのかわり目標としてこういうことをやってください、というようなことがあった上で、それができたら達成度3ではなく1になるのではないかなと思う。 担い手に対する支援を具体的にし、公園体操だったらあと3つ増やしたらいいのではないかな、というような形で示し、それが達成されたら1になるというようなことではないかなと思う。数的な目標設定が難しいものは、この部分ではできる、ということを示せばいいと思う。 支援すると言って何を支援するのかが分からないということと、どのような支援をすればいいのかということをお互いに話し合う、ということが抜けているのではないかな。

発言者	発言要旨
吉田輝久 委員	私も1番のところで。公園体操は、昨年の4月から三田第3公園でも立ち上がった。その前には役所の人と3回か4回会議をした。立ち上がってから初めの3か月ぐらい様子を見に来てくれ、その後は、皆さんにお任せして自由にやってください、という形になり、4か月か5か月经って、また様子を来てくれた。 達成度3としてはその程度で、立ち上げてあればあとはお任せし、年に2回か3回様子を見に来る、というものなのでは。 達成度1というのは行政でなかなか難しい。
事務局 (瀧課長)	評価について、ということだが、資料5-2の方は事業の所管課がそのように判断した、ということでご理解いただければ。それをもとに資料5-1についてはおおむねここに集約されている。
有北委員	色々な事業評価に関わってきたが、どうしても真ん中の評価になってしまう。1から5、AからCまであるのだから、本当ならもう少し細かく見て、できていない部分も出していかないといけない。 達成度1の「目標を大きく上回って達成」に比べたら、達成度3はかなりレベルは低い。課題はなんなのか、というのが必ず出てくるべきで、評価して終わりではなく、今後課題にどう取り組むか、という前に進めるような評価をしていかないと、全部真ん中で、よく頑張りました、はい次、といういい加減な流れになってしまう。せっかく評価するのだから次につながるような評価の仕方をされた方がいいのではないかな。
事務局 (瀧課長)	令和元年度の評価を年度末に向けてまとめていくことになるので、その辺りも加味しながら年度ごとの評価の方に反映していきたいと思う。
和座長	評価のところで一言だけ。 地域福祉計画は数値化が非常に難しいので、例えばだが、一堂に会してそれぞれが基本方針の中で取り組んだことの意見交換をして、その中で評価をしていく、というのは必要な気がする。それをやることでよかった点と課題というのが抽出されるので、基本方針の大きな枠組みの中で、関係した皆様方と意見交換する中で整理していくといいのではないかな、と思った。 それでは、議事(3)「基本目標3 見守り・支え合いのネットワークづくり」についての意見交換に入りたいと思う。 この「見守り・支え合い」さらにその「ネットワークづくり」というのは、皆様方が普段行われている活動そのものになると思うが、いかがか。

発言者	発言要旨
有北委員	どうしてこの場で明後日に開催されるソーシャルデザインセンターの検討会の中間報告会の案内をしないのか。 今企画課の方が担当しているこの検討会も、もとは地域包括ケアシステムから出ている施策の一つで、コミュニティ施策、ソーシャルデザインセンター、まちのひろばは、これからこの支え合いのまちづくりとも並行して、あるいは交差して、あるいはお互い高め合ってやっていく事業になっていくはずなのに、なぜここでも縦割りを通されるのか。 施策とは、縦割りでこれはこれ、と分けるものではなく、こちらではこういう動きもある、ということを情報として流さないといけないのではないかと毎回思うのだが、出てこない。
企画課 岩上課長	おっしゃる通り。実は明後日の中間報告会への参加受付の締め切りは終わっており、あえてお配りしなかったのだが、この後パンフレットをお配りさせていただく。
有北委員	締め切ったから、ではなくて、情報としてこういうこともやっているのだ、ということを示さないと。
企画課 岩上課長	分かりました。ありがとうございます。
和座長	町会に加入していない人たちをどう支えていけばいいか、というところにつながってくる話だと思う。前回の会議でも、この課はこのイベント、この課はこのプログラム、でも出ている人たちはいつも一緒に、みたいな話があった。私の意見としては、それは大事だという話をしたが、やはり重なり合って、重層化させていくことで漏れがなくなってくると思う。重なりすぎているのではないか、という意見もあるかもしれないが、町内会だけで解決はできないし、なんとかネットワークだけでも解決できない。でも色々やって重なり合っていく中で隙間が埋まって漏れが少なくなっていくと思う。縦割り、という批判はあるが、色々なことをやりながら重なり合わせていく、重層化させていくということが大事だな、と思っている。

発言者	発言要旨
青木委員	実は一斉に町内会をやめた1人である。なぜかという、もう高齢化して役員の活動ができないから。 100世帯ごと資料を集めたり配ったり、やるが多すぎる。町内会を否定するわけではないが、我々の地域だけに限らずもう皆高齢化していて、100世帯の資料の持ち運びなどできない。とある方が役員をやられたときに、資料を車で運んで非常に苦労したという話を聞いた。それ以外にもお祭りやら寄付やら、とにかくものすごくやることもある。町会とケンカするつもりではないが、町会に入っている人が全体的に多分半分ぐらい。じゃあもういる必要ないのではないかと、となり、残念ながら脱退せざるを得なかった。我々としてはやむを得ず脱退したので、町内会を脱退したら無責任だとか、そういうことは言えないはずだ、と思う。例えば防災など、町内会に入っていないから優先順位が低いとか、とんでもない話だ、と私は思っている。町内会の話がたまたま出たので一言言わせていただいた。
木澤委員	今広報100部との話があったが、今行政からの資料は確か10部以上は直接班長さん、組長さんのところに配送してもらうシステムがある。私ももう年を取っているし十分分かるが、町会をやっている立場としては、こういう会議で話をしているよりも、隣近所、町会とのつながりを大事にした方がプラスになるのではないと思う。本当はこの時間、盆踊りの準備だとか、町会のことだとか、子ども食堂の準備とか、地元に戻っての活動をしっかりやりたいと思っている。私は、会議はなかなか前に進まない、本当に動かないと進まない、と思っている。町会活動が大変なのは十分分かっているが、私も町会の副会長をやっているし、ここにいらっしゃる方は多分みんな町会の会長等やってらっしゃる。先ほど有北委員が、民生委員をやっているから役員はできない、ほかのボランティアもやっているから、と仰っていたが、そうやって大変な中、私もいろんなことをやっている。それでも自分の住んでいる場所に足をつけて生きていたいと思うから、町会の仕事も一所懸命やっている。自分が本当に動けなくなった時に、町会の仲間がいなくて厳しいのではないかな、と思うのでやはり町会は大事にした方がいいような気がする。
青木委員	我々はむしろ地域のつながりが濃くなった。町会に依頼するというのではなく、地域で色々助け合おう、という空気が強くなった。町会を脱会したからそういう関係を作れないというようなことはあり得ない。我々と町会との関係はなくなったかもしれない。しかしむしろ年寄り連中の集まりが非常に濃くなり、隣近所お互い助け合わなきゃいけないという空気ができ、お互いに話し合う機会ができた。今までは隣の家が何をしているか分からないようだった。それが今は、お互いにあそこの家庭は両親が相当年だとか、そういうことをちゃんとできている。プライバシーの侵害だと怒られる向きもあるかもしれないが。

発言者	発言要旨
和座長	岸委員、どうですか。 長く町内会活動をやられて、相談やら何かありますか。
岸委員	どこの地区、町会でも若い人は町内会に入らない。すべてメリットがあるかないかで判断されてしまう。本当はメリットがあるのだけれど気が付くのは年を取ってから。医師でも、医師会に入らない人はたくさんいる。医師会に入るメリットが分からない、会費だけ取られて役職をつけられて、それならやらない方がいい、と言うが、もうちょっと先のことを見れば、ある程度一つの団体がまとまっていなくて命令系統が分からずどこに指示しているのか分からない。災害の時も、町会が機能していればそこを通してインフォメーションが流れていく。それがなくバラバラだと行政も連絡が取れないので、命令系統をきちんとするためにも町会は必要。入らない方がいらっしゃったとしてもうまく入れてあげるような方向で促しては。それはここにいる皆さんがやっていかなくちゃいけないことだと思う。行政の人が言って入るものでもないし、医師会の会長が医師会に入るように言って入るものでもない。それは個人的なつながりだとか、お祭りに来た人に入ってくださいねとお話しするとか、そういう風にやっていくしかないのでは。ただ、命令系統はこれから先災害になったときに即、必要だと思う。どこかにいけば届く、というシステムを作らないといけない、と思う。
和座長	ありがとうございます。 会議の位置付けは、皆さんと情報共有しながら多摩区の課題も見えつつ、どのようにしていけばいいのか、ということ話し合い、それを自分も含め皆様方が現場に持ち帰って実践をしていく、そういういい場になっているのではないかなと思う。 最後に、ソーシャルデザインセンターが構想されていて、民意を行政とうまく連携しながら、という大きな川崎市の施策になるので、これはうまく活用していかないともったいないと思う。地域みまもり支援センターは、なんでも相談、なんでも対応という、素敵な窓口ではあるが、なかなかそれがうまくいってないようにもお見受けするので、ソーシャルデザインセンターができるのであれば庁内の連携もうまくできるような体制づくりができたらいいいとも思い、その協力は惜しまないので、何かあれば仰っていただければと思う。 多摩区は先陣を切ってソーシャルデザインセンターができるということなので、委員の皆様方、今後色々ご協力いただければと思う。
和座長	以上で、議事は終了する。 それでは、進行を事務局へお渡しする。
事務局 (瀧課長)	和座長、長時間、議事の進行をありがとうございました。 それでは閉会に当たり、地域みまもり支援センター所長の飯土井から御挨拶申し上げます。
飯土井所長	閉会の挨拶。

発言者	発言要旨
事務局 (瀧課長)	(ソーシャルデザインセンターのフォーラムのチラシ配布) 以上を持ちまして、令和元年度第1回多摩区支え合いのまちづくり推進会議を閉会する。 次回の会議は年明け2月を予定している。ありがとうございました。
	閉会

以上